
ビーだま。° ○

由樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

びーだま。。

【Nコード】

N1796A

【作者名】

由樹

【あらすじ】

公園で、噴水があつて、風が吹いてて。そこで飲んだラムネは冷たくて、美味しかった。——ねえ、まだ輝けるかな…。

ピカピカ

キラキラ

少しも歪まずに

ただそこで

七色の光を放ってる

とてつもなく愛おしくて、時間が経つのも忘れて見つめていたっけ。

いつからだっだろう。何も求めなくなったのは。欲しいものがないって、ただ流れるままに生きるようになったのは。

晴れた日だった？それともどんより曇った日？

わからないよ…だってあたしは、思い出したくないから。

夏の暑い日、公園に散歩に行つて、瓶入りのラムネを買ってくれたお父さん。

ひんやり冷たくて、しゅわしゅわして。飲む度にからんと中の硝子玉が音を立てた。

「これ、すっごいきれいだね」

透き通った、清々しい色。まるであたしの心を映したみたいだった。

微笑んできゅっと瓶の口を回してその宝石をあたしに渡してくれ
たお父さんが世界で一番大好きだった。

ねえ… パパ？

今、どこにいるの？

いつの間にかあたしは独りぼっち。会社に出かけたお父さんは二度と帰って来なかった。

「いつてくるね」

って寝てるあたしにそつと囁いてくれた感覚はずっと覚えてるのに。

高校生になった今でも、認めたくないことはいっぱいある。

『欲しいもの』がないんじゃない。もう、とうに諦めてるんだ。

早く大人にならなきゃ。そうすればきっと、今ほどは辛くないでしょう？

昔の想い出だって割りきれるでしょう？

…なんて、夢みたいなこと考えてる。

大人になったって、どんなに立派だって言われる人になることが出来たって、辛いことは辛いよ。

悲しいことは、どんなに経っても悲しいんだよ。

おっきくなる度に気持ちは増していく。パパやママが生きてた時と同じ年に近付いていく。

立ち止まりたくないけど、皆はもういない。

あたしの時計の針は絶え間無く動いている。
怖いよ。とてつもなく不安だよ。

でも、確かなことは一つだけある。

びーだまは、ずっと輝いてる。

（後書き）

最後、伝わっていると良いなあ。自分なりに推敲して思いを込めました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1796a/>

びーだま。° ○

2010年11月25日13時49分発行